

環境ボランティア活動

「環境ボランティア活動」は、環境問題について正しい知識を持ち、生徒一人一人が自らの問題としてとらえ、科学的に考察できるようになることを目標としています。現在も実施している「足尾植樹緑化」や「ペットボトルキャップ回収」などの活動を継続し、さらに生徒の意識を向上させる活動を発展的に展開していきます。



6月2日(土) SSH『足尾植樹緑化ボランティア』に参加しました。

日本が直面した公害問題の1つに栃木県で起こった「足尾鉍毒事件」があります。長年にわたる銅の採掘や精錬による有毒ガスのために、現在も山は荒涼たる風景のままです。本校は、平成15年より日光市足尾松木溪谷付近の植樹活動に参加してきましたが、昨年度からはSSH活動の一環として英進部1年生を対象にして、資料等を使っての事前学習や宇都宮大学農学部小金澤正昭教授の講義、現地での環境調査など科学的な知見も含め実施しました。事前に学習したことがそのまま活かされ、科学的に考察し、さらにいろいろな立場の人の意見の違いや苦労についても深く考えさせられました。



NPO 法人「足尾に緑を育てる会」の方が、足尾の歴史や植樹活動の目的について説明してくださいました。

1年生21名、2年生3名が参加し、ケヤキとコナラの苗木を1本ずつ、小型の鍬、腐葉土とともに受け取り植樹に向かいました。



はじめに皆で山を登り、まだ植樹されていない場所を探しました。男子の生徒たちは、かなり高い所まで登り、植樹に適した場所を探しました。

小型の鍬で土を掘りましたが、小石がかなり交ざっているため、皆、穴を掘るのに苦労しました。かなり高い所まで上ったの植樹となり、足を滑らせないように慎重に植樹をしました。適当な大きさの穴を掘り、苗木を入れ、苗木の周りに腐葉土を埋めて水をかけ、植樹は終了です。

シカの食害を避けるため、シカの防護柵に囲まれた中に植樹しました。冬は雪の圧力で柵が倒れてしまうこともあるそうです。今回、植樹した樹木は、ケヤキとコナラで、コナラは秋にはドングリを熟し、動物の餌となります。さらに、発育した根は土砂崩れの防止にも役立ちます。

植樹が終わって、銅(あかがね)親水公園に寄って皆でお弁当を食べ、途中の川では、2年生が研究用の川の水と土を採取しました。植樹は大変でしたが、煙害で荒廃した足尾の山に緑を取り戻そうとされている地元の方々の熱意に心が打たれました。

